

ピースおおさか展示リニューアル「実施設計」中間報告（案）

【展示リニューアルの方向性】

ピースおおさかの目的

- ・大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する
- ・大阪空襲を中心にして「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」を次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育む

- 次代を担う子どもたちが、大阪と戦争の関係や身近な地域に起こった空襲の事実を通して、戦争の悲惨さ、戦争の背景・メカニズムを理解するとともに、平和を自分自身の課題として考えることができる展示を目指すことを基本とする。
- “大阪中心”に“子ども目線”で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」にリニューアルする。

「ピースおおさか展示リニューアル構想」（平 25.3 策定）より抜粋

【展示設計方針】

1. 子ども目線の展示

子どもたちの暮らしの変化の様子を基軸に展開し、社会の急激な流れの中で子どもたちがどのような思いを抱いていたのかをクローズアップさせる展示とする。

3. 知的好奇心を喚起させる展示

「中に入ってみたくなる」「次が覗いてみたくなる」といった、人々を興味から行動へと導いていく展示を空間構成面と展示手法面の両方から行い、最後まで見たくなる展示を目指す。

2. 実感できる展示

「実物」はいわれのある、メッセージ性の高いものを中心にピックアップし、「証言」と組み合わせるなどして、リアリティのある展示とする。詳細な解説などは補助的な位置付けとし、無駄な情報の氾濫はさける。

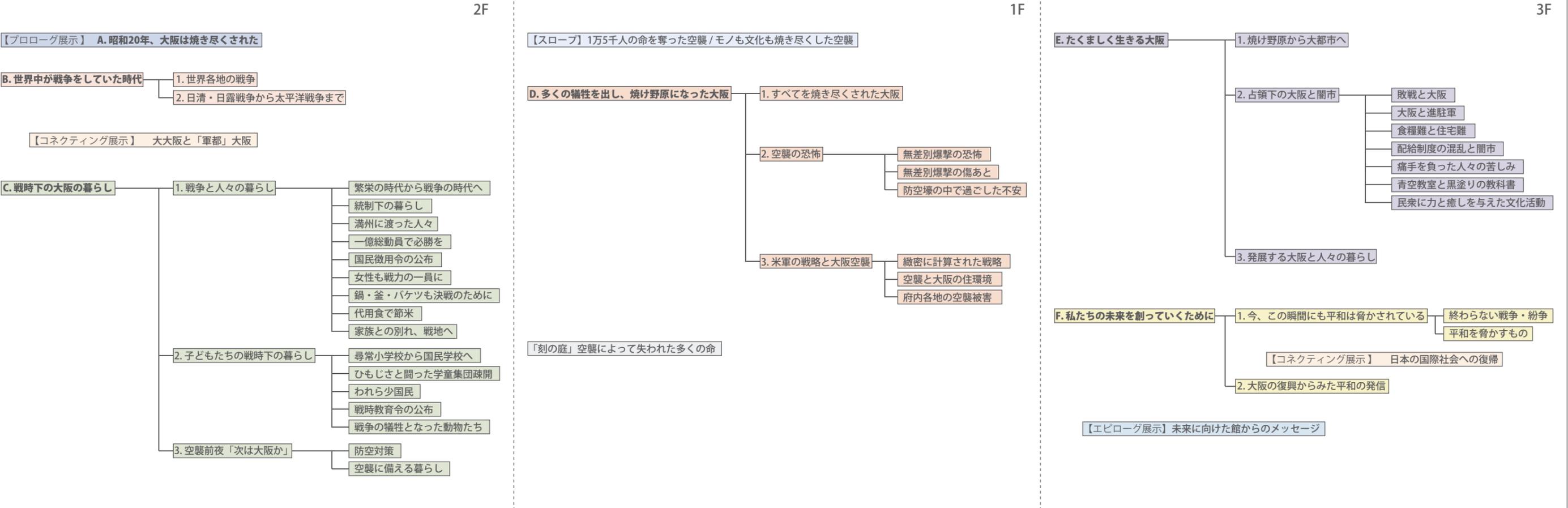
4. ローコスト、ハイパフォーマンスな展示

戦争のあった時代を物語るものとして、最もパワーのある当時の「証言」と「実物」を中心に、「写真」も活用しながら展示メディアを構成。シンプルな形状であっても展開の仕方で非常に興味深いものにすることが可能。

【展示に当たっての留意点】

- 事実を客観的に展示することを基本とし、資料源について十分に配慮するなど公正・公平を期す。
- 展示の用語等については、「戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝える」という館のミッションなどを踏まえ、府内の中学校において広く使用されている教科書に準拠する。

【展示ストーリー】



【プロローグ展示 A. 昭和 20 年、大阪は焼き尽くされた】 ※) イメージ図は、現段階のものであります。



1

大阪各所の空襲後と定点撮影による現在の写真比較。

外国人向けに多言語音声ガイドを導入

B-1. 世界各地の戦争

日本を含め、世界中が戦争をしていた時代を振り返り、技術や文化の発展とともに、戦車や飛行機などの近代兵器が開発され、一般の人々までが、被害を受けるようになったことを伝える。

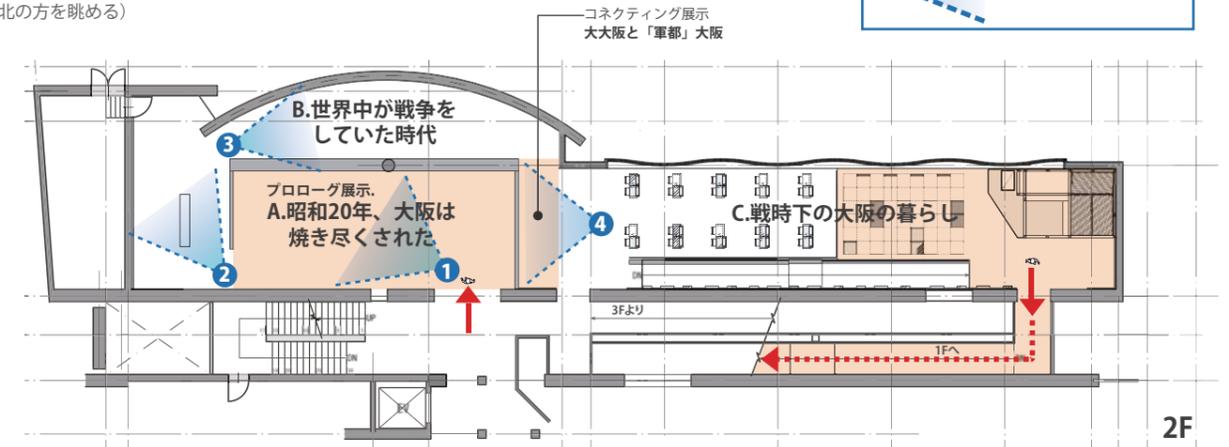


3

日本そして世界の戦争の歴史を「線」で捉えることにより、その関係性を示す。写真や地図などを盛り込み、子どもが理解できるように展開とする。

技術や文化の発展とともに戦車や飛行機などの近代兵器が開発され、一般の人々までが被害を受けるようになったことを示す。

第一次大阪大空襲後の大阪市内の様子
(千日前の歌舞伎座屋上から北の方を眺める)



：パースアングル

【B. 世界中が戦争をしていた時代】

B-2. 日清・日露戦争から太平洋戦争まで

なぜ日本は太平洋戦争に突入することになったのか、その経緯と終結までを映像で概観する。

太平洋戦争（大阪空襲の悲惨さ）
大阪空襲を体験した人々の証言の中から選定し、展示化。



2

【映像の内容】

- 1. 日清・日露戦争後の国際関係と満州の権益**
列強によるアジア・アフリカの植民地化、富国強兵政策
日清戦争（下関条約と三国干渉）
日露戦争（ポーツマス条約と満州経営）
中華民国の成立、ロシア革命とシベリア出兵
日本の第一次世界大戦参戦と21か条の要求
長引く戦争と総力戦、ベルサイユ条約
軍備縮小、東アジアの新秩序
- 2. 戦争の拡大とアジアの被害**
世界恐慌の衝撃、ニューディール政策とブロック経済、ファシズムの台頭
統一を進める中国と日本
政党政治の危機
日本の進路を変えた満州事変
強まる軍部の力
中国との全面戦争
日本の南進と経済封鎖
太平洋戦争開戦
- 3. 終戦に向かう日本**
苦しくなる国民生活
本土空襲
戦場となった沖縄
ヒロシマとナガサキ
降伏
占領と非軍事化・民主化

【コネクティング展示・大大阪と「軍都」大阪】

商業・紡績・鉄鋼などあらゆる産業が栄え大大阪と呼ばれた大阪が、東洋一の規模を有した砲兵工廠や第四師団司令部の立地など軍都という一面も有していたことを紹介。併せて、国防婦人会の創設や満州ブームなど、市民も戦争に深く関わっていった様子を示す。



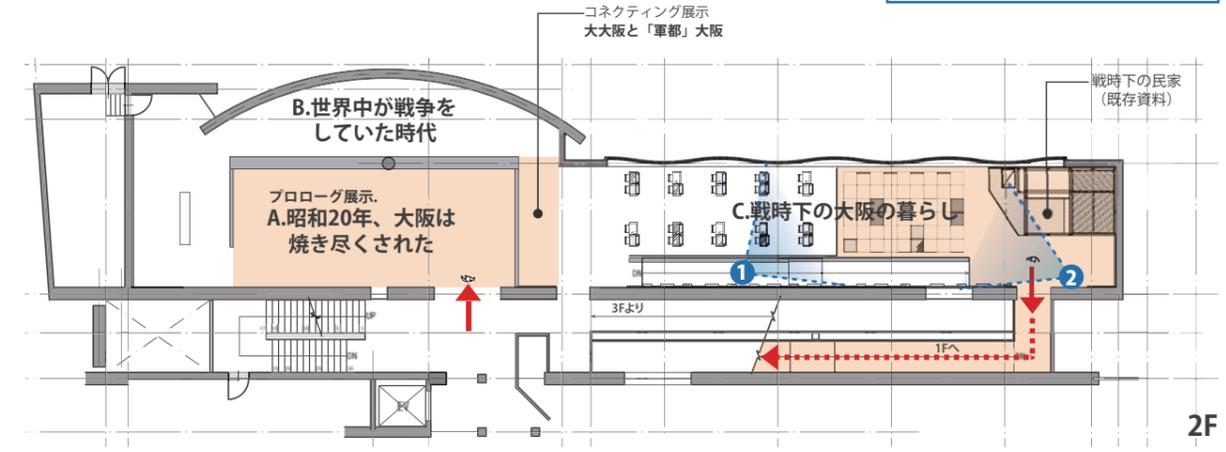
4

【C. 戦時下の大阪の暮らし】 ※) イメージ図は、現段階のものです。



国民学校の机を模した実物展示ケースと展示の関連情報が見られる検索モニター。

実物展示ケース



■戦時下の民家 (既存資料)



既存資料である戦時下の民家に、音声・映像演出を付加し、空襲の恐怖に怯えていた大阪の人々の暮らしを紹介する。

C-2. 子どもたちの戦時下の暮らし

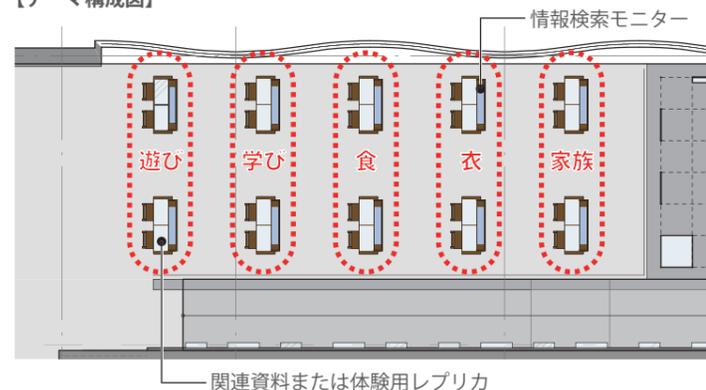
戦局の悪化に伴い、子どもたちの生活も厳しさを増していく。学校教育、疎開、食糧事情、遊びやおもちゃなど、子どもたちの日常さをも時代に振り回されていった当時の様子を紹介する。

C-1. 戦争と人々の暮らし

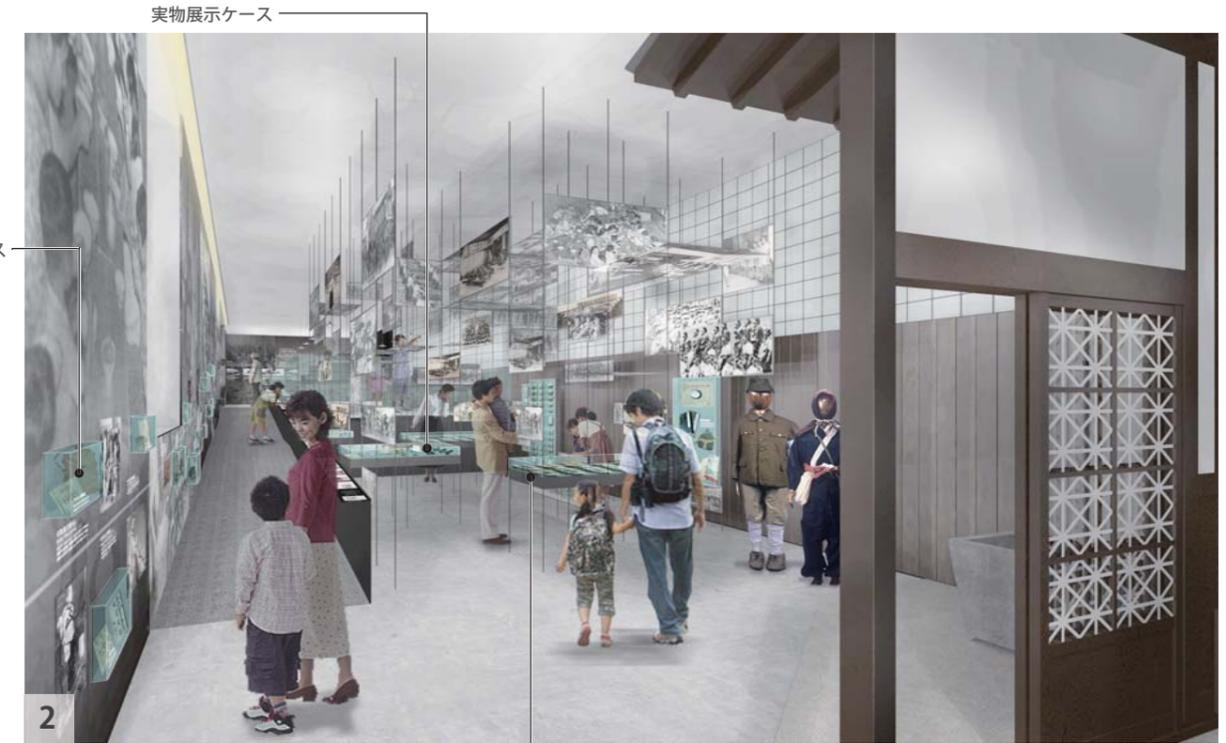
戦争の長期化は、国民生活に大きな影響を及ぼした。戦時経済体制の下、物資が不足し、人々は苦しい生活を余儀なくされていく。戦火の脅威にさらされる中でも懸命に生きた人々の暮らしを紹介し、平和な毎日を楽しむことができる今日との違いを実感してもらう。

実物展示の例：戦地からの手紙、疎開児童の日記や手紙、愛国百人一首、国民服、ゲートル、もんぺ

C-2. 子どもたちの戦時下の暮らし
【テーマ構成図】



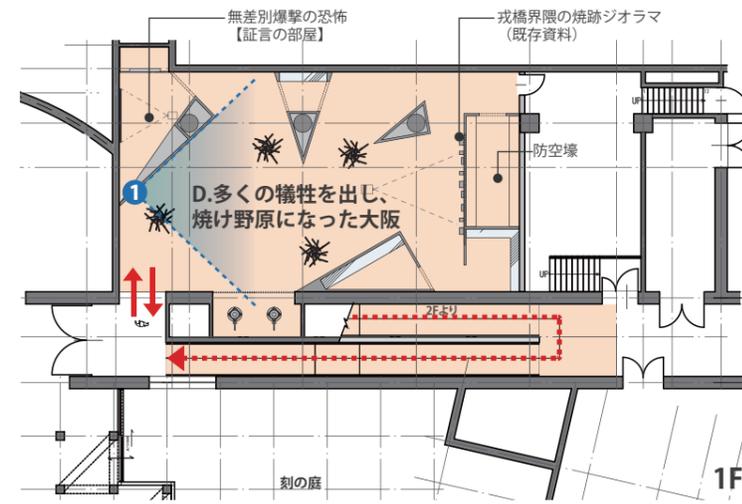
C-3. 空襲前夜「次は大阪か」



C-3. 空襲前夜「次は大阪か」

戦局が悪化していく中、米軍により日本の主要都市は次々と空襲されていった。大阪でも地域や家庭で来るべき空襲への備えを進めていた。東京、横浜、名古屋が壊滅的な被害を受ける中、大阪の人々の様子を紹介する。

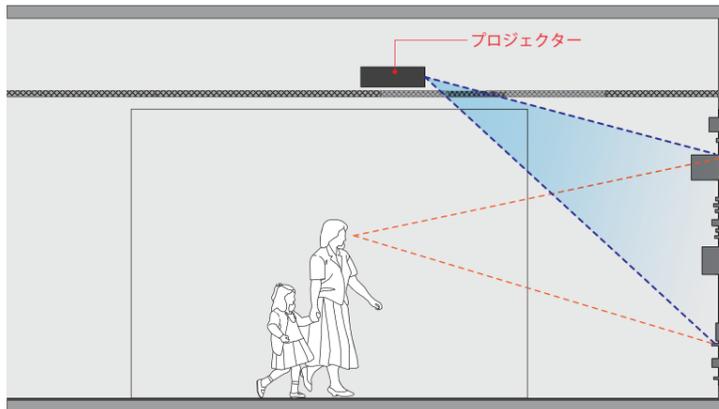
【D. 多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪】 ※) イメージ図は、現段階のものです。



米軍撮影によるターゲット
ナンバー入り航空写真
1トン爆弾 (既存資料)
E46-500 ポンド集束焼夷弾
東住吉区田辺に落とされた模擬原爆 (写真と解説)



■映像演出時
D-2. 空襲の恐怖



■戒橋界隈の焼跡ジオラマ (既存資料)
既存資料である戒橋界隈の焼跡ジオラマに、プロジェクションマッピングにより映像を投影。音響・照明演出と連動させた、体感型複合演出によって空間全体を演出する。
戒橋界隈の焼跡ジオラマ

D-3. 米軍の戦略と大阪空襲
軍関係施設に限らず、都市を無差別に爆撃し、一般市民を巻き込んだ大阪空襲の実相を、米軍の戦略から読み解き、紹介する。
疑似体験ができる防空壕を設置 (空襲警報、音、光など)

D-1. すべてを焼き尽くされた大阪
50回以上の空襲により、壊滅へと追い込まれていった大阪の悲惨な様子を紹介する。

D-2. 空襲の恐怖
大阪を焼き尽くした空襲の実相を、“証言”と被災“実物資料”を中心に伝える。

【E. たくましく生きる大阪】 ※) イメージ図は、現段階のものです。



E-1.焼け野原から大都市へ
 占領下の暮らしから高度経済成長を経て、再び大都市へと復興していった大阪の様子を紹介する。



E-2.占領下の大阪と闇市
 主権回復までの7年間、貧困や物資不足などの苦しみに耐え、当時をたくましく生き抜いた先人たちの姿を紹介するとともに、行政の取り組みの他、様々な主体による支援活動によって復興が成し遂げられていったことを紹介する。

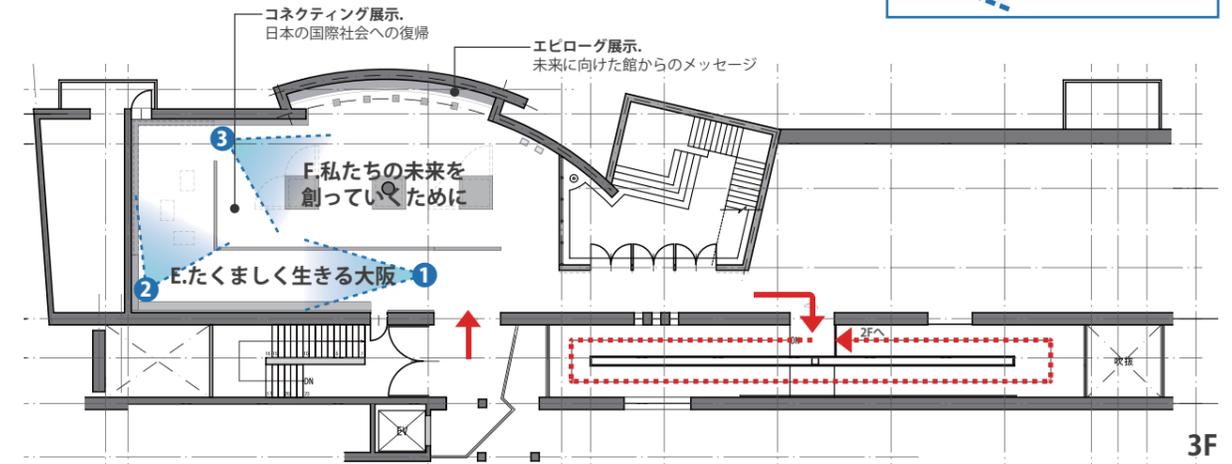
【F. 私たちの未来を創っていくために】



F-2.大阪の復興からみた平和の発信
 大阪が戦前・戦中・戦後を通じて得た教訓を元に果たすべき役割とは何か。私たち一人ひとりが今できることは何かを考えてもらう。

F-1.今、この瞬間にも平和は脅かされている
 今、この瞬間にも世界各地では様々な問題が発生し、平和が脅かされていることを紹介する。

中央の空間造作を開閉させることで、ワークショップや学習プログラム等に対応出来る空間が展開可能。



E-3.発展する大阪と人々の暮らし
 占領統治解除後、高度経済成長を果たした日本と大阪を概観する。
 「通天閣の再建」
 「千里・泉北ニュータウンの開発」
 「大阪万博の開催」
 「船場センタービルの整備」など